

眉山眺望景観保全計画 一眉山とともに

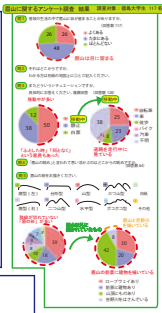
徳島大学 工学部 建設工学科 都市デザイン研究室 4年
小川 徹 竹内 彩 長井 愛子 西部 絵理 板東 ゆかり

眺望点抽出

郷土資料・ガイドブック・広報誌などの文献 (19)
映画『眉山』(3)
※ () 内は抽出数

フォトコンテスト応募作品 (16)
学生アンケート調査結果 (60)

合計 98 地点から重複地点を除いた 74 地点を抽出。そして現地調査の結果、私有地と、実際に眺望できなかった箇所を除いた 57 地点を評価対象とした。



現状分析

眉山は徳島市中心部にあり、JR徳島駅前からは、眉山の麓まで道路が一直線に伸びている。さまざまな方向から表情の違う眉山を見ることができる。しかし現在、徳島駅からは、ビルに隠れて直接眉山を眺めることはできず、また、再開発事業により、さらに眉山の眺めが脅かされようとしている。普段、眉山がそこにあることは当たり前すぎて、眉山を特別に感じる人はいないが、実際に脅かされると、自然と市民の意識も高まり、声を上げる人も増えてきた。そうやって初めて、市民たちの心の奥底にある眉山への思いが表面化した。

眉山の眺めを守るための施策
それを実現するための施策が必要・・・

眺望点選定

眺望点特性 (眺望する視点を評価する項目)
眺望景観特性 (眉山を含む眺めを評価する項目)

評価対象: 57 地点 87 眺望
6 項目で評価 (各 0~2 点)

- 公共性: 市民が自由に眺望できる場所であることや、アプローチのしやすさ
- 土地性: 徳島らしい地物がある
- 歴史性: 視点自体が歴史を有している
- 快適性: 視点場の環境を阻害する要因がない
- 観光性: 阿波踊りの演舞場やそこに訪れるために通過する場所である

①調和性: 建築物や広告物の意匠が眉山と調和している

7 点以上を仰角により近景・中景・遠景に分ける

近景 13°
中景 7°
遠景

(参考:『景観の構造』 樋口忠彦著 6 章仰角 4 山の仰角についてのまとめ)

3 項目で評価 (各 0~2 点)

- 都市景観性: ケビン・リンチの都市のイメージを構成する要素が揃っている
- 連なり: 後線や連続性をもって見える
- 開放的: 見通しがよく、視界が開けている

14 点以上の計 4 地点を重要眺望点とした
計 9 項目 (18 点満点)

新町橋 藍場浜公園 かちどき橋 吉野川大橋

眺望点抽出

眉山の眺望を知るために眺望を抽出し、その周辺の様子を調査する

眺望点選定

重要眺望点を決定するために評価項目を作成し、それに沿って評価する

方針

かちどき橋の例

眉山 前景

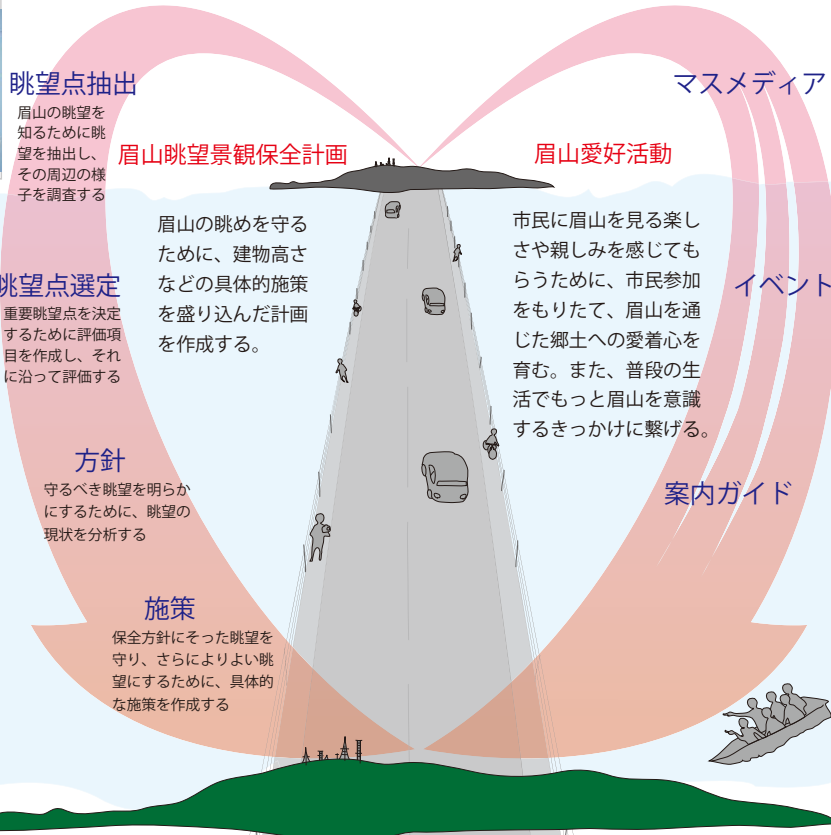
眉山の稜線をきれいに眺めることができる。前景 徳島市中心部に位置する街並みを望むことができる。また、市街地を流れる新町川に橋が架かっているため、視界に広がりがある。

現状分析

眉山 眉山の稜線をきれいに眺めることができる。前景 徳島市中心部に位置する街並みを望むことができる。また、市街地を流れる新町川に橋が架かっているため、視界に広がりがある。

保全方針

徳島市の中心部にあり、交通においても重要な橋からの、ならかな稜線を有する眉山の開放的な眺めとそれに調和する街並みを保全する。



施策

かちどき橋の例

眉山の眺望に影響を与える区域として眉山眺望保全区域を設定。眉山の眺望を守るために、下図のように眺望保全区域を3つのエリアに区切った。屋外広告物、色彩については、かちどき橋からの眺めの調和を図るために、視野全体で施策を作成した。

緑のまわりを守るエリア
後線を守るエリア
眺望中景エリア

建築物

エリアごとに既存の建物高さから見通し高さ限界を決めた規制高さとする。
※美しいスカイラインの形成に取り組む。
※屋上広告物の高さも、これに含む。
※色彩は徳島市都市景観形成基準の推奨色を推奨。
※眺望点周辺地域は視点場の環境を考慮。

広告物・設備

設置高さは、建物高さ規制内に収める。
※色彩は徳島市都市景観形成基準の推奨色を推奨。

斜面緑地

今ある緑を乱さないように、既存の緑の中に埋められるように色彩や配置等を工夫する。

このような施策を、下図のようなシミュレーションを行い、具体的に計画書に示した。

現状

施策の境界高さまで建物建てた場合

スカイラインに考慮した場合

計画によって、眉山の眺めが守られ、今後も眉山を見続けることができる。毎日、眉山を見ることで、季節や天候の変化を感じることができ、安心感、癒し、心の豊かさが生まれ、そのことが生活のゆとりにつながる。また、街は日々変化しているけれど、眉山は変わらずずっとそこにある。眉山を見て、徳島にいることを実感する。地域を意識することが、市民の郷土愛着に繋がる。

マスメディア

概要

四国放送テレビ「フォーカス徳島」(H20年2月12日,18日放送)、徳島新聞(H20年2月13日,19日掲載)の取材を受け、プロジェクト内容や、眉山の眺望を守ることの重要性や難しさについて語った。また、学内発表会の様子も報道された。今後も、このようにマスメディアを通じて情報を発信していく。

効果

テレビや新聞の報道により、多くの市民からの反響があった。自分が好きな眉山の眺望などの意見が、電話などで直接寄せられた。普段は知ることのできない市民の心の中にある眉山への思いを知ることができた。改めて、徳島における眉山の重要性を再認識した。さらに、四国放送ラジオ「JRTサンデーウェーブ」からも出演依頼が来た。

イベント

目的

イベントに参加し、じかに眉山を見てまわることで、子供からお年寄りまで幅広くに眉山を身近に感じてもらう。

概要

イベント『ばち・びた眉山フォトラリー(仮)』を開催する。5枚の眉山の写真(①~⑤)を配布し、それがどこから撮影されたものかを制限時間内に探し出し、地図に記入してもらう。季節や時間帯を変えて開催することで、違った眉山の姿を楽しめるようにする。イベント参加者に自分のいいと思った眉山の写真も撮影してきてもらい、その場所を次回からのイベントに使用することで、市民も開催側に参加できるようにする。

イベントポスター

配布地図と写真

案内ガイド

目的

パンフレットに選ばれた眉山の案内ガイド『眉山めぐり~散策の旅~(仮)』を作成する。案内ガイドに載せる眺望ポイントは市民による応募を募り、その中から選考を行うものとする。また、選考された場所の案内ページには、my眉山として応募してくれた人のその場所の眉山の眺めに対する思いや推薦理由などのコメントも載せる。

概要

様々な場所から見える眉山の案内ガイド『眉山めぐり~散策の旅~(仮)』を作成する。案内ガイドに載せる眺望ポイントは市民による応募を募り、その中から選考を行うものとする。また、選考された場所の案内ページには、my眉山として応募してくれた人のその場所の眉山の眺めに対する思いや推薦理由などのコメントも載せる。

表紙

「my眉山」とは・・・それぞれの一番お気に入りの眉山のこと

内容